

1. 総 則

1.1 計画の背景と目的

米代川流域では、平成19年9月15日から18日にかけて温帯低気圧がもたらした大雨により洪水（以下、本洪水という）が発生し、河川のはん濫や低い土地の浸水など多大な被害を受けた。

本洪水では、河道の流下能力の不足や、行政から住民への情報提供、そして避難誘導等が必ずしも十分ではないことが分かった。

こうしたことを背景として、「米代川の総合的な治水対策計画」（以下、本計画という）は、概ね10年を目途として、能代市・北秋田市・大館市・鹿角市・秋田県・国土交通省東北地方整備局が連携して対策を進めることにより、「安全・安心して暮らせる水害に強い地域づくり」を目指すものである。

1.2 計画の策定経緯

本計画は前述の洪水を受け、平成19年11月3日に米代川沿いの能代市・北秋田市・大館市・鹿角市の4市長と米代川本川・支川の河川管理者である東北地方整備局河川部長及び秋田県建設交通部長により「米代川の総合的な治水対策に関する懇談会」を開催し、「安全・安心して暮らせる水害に強い地域づくり」のため、早期の治水効果発現が必要との共通認識が示された。

そこで、「米代川の総合的な治水対策協議会」（以下、協議会という）を設置し、市・県・国が連携した取り組みについて検討を行った。

1.3 計画の構成

本計画は、治水対策を効果的かつ計画的に実施するため、その目標と各機関の役割等を定めたものである。

2. 米代川の概要

米代川は、その源を秋田県、青森県及び岩手県の3県境に位置する中岳（標高1,024m）に発し、一旦、岩手県を南下した後、その向きを西に変えて秋田県に入り、大湯川等の支川を合わせながら、大館盆地を貫流し、能代市二ツ井町付近で阿仁川及び藤琴川等の支川を合わせ、能代市において日本海に注ぐ、幹川流路延長136km、流域面積4,100km²の一級河川である。

米代川流域は、北部の秋田県及び青森県境にまたがる世界最大級の規模でブナの原生林が分布する白神山地、東部の東北地方中央部を南北に縦断する奥羽山脈、南部の出羽山地及び太平山地に囲まれ、やや不規則な5角形の形状を呈しており、花輪盆地・大館盆地・鷹巣盆地・能代平

野が形成されている。その流域は秋田県北部のほぼ全域を占めており、山地が約 88%を占め平地はわずか 12%である。また、各盆地は湖盆地と考えられており、階段状に配列され、それぞれ山地によって隔てられ、これらの山地にあたる能代市二ツ井町付近、大館市長坂付近、大館市十二所付近は狭窄部となっている。米代川流域は、関連市町村人口 25 万人、秋田県北部地域における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、本川、支川が人々に多くの恵みを与える自然環境豊かな地域である。

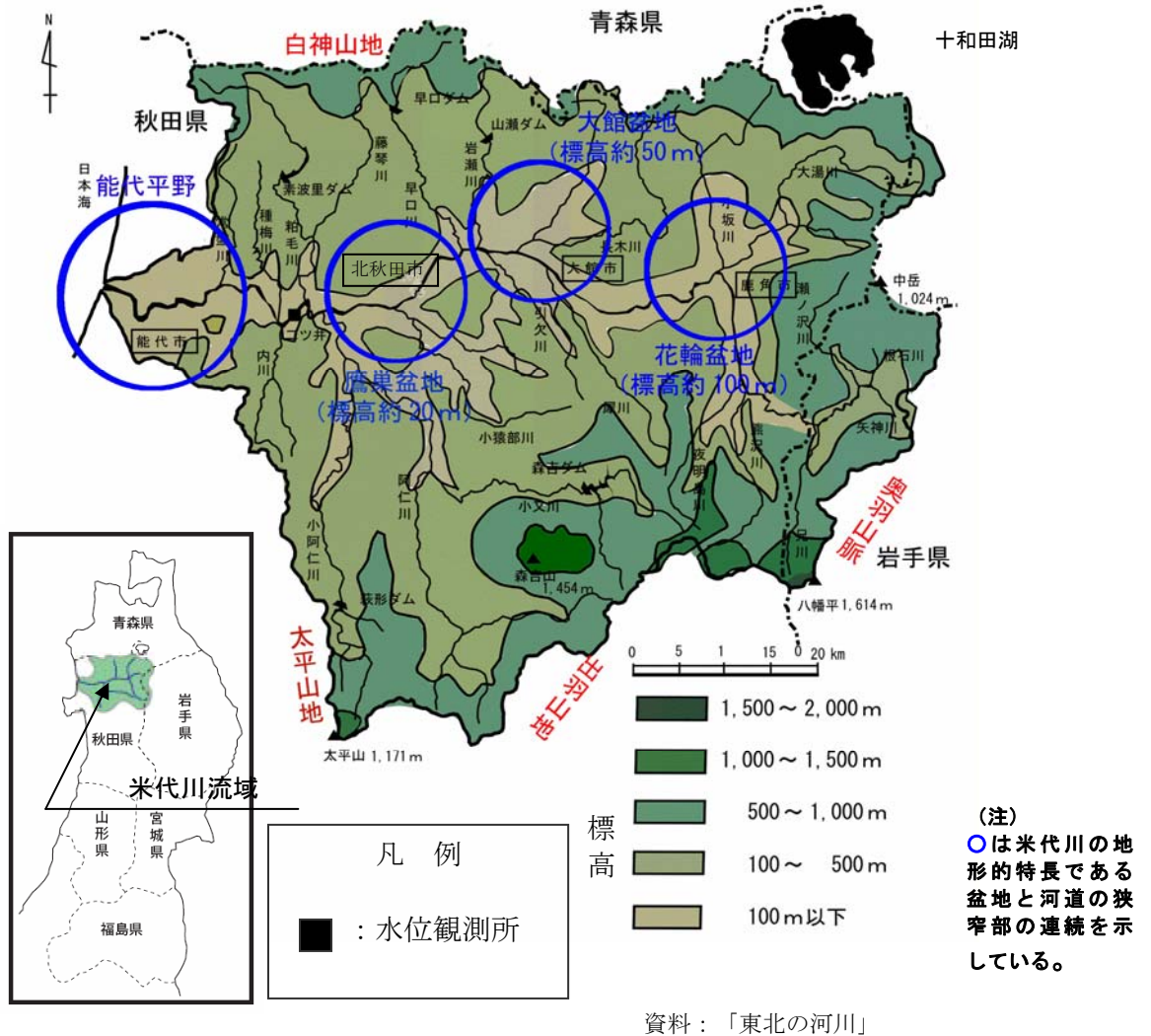


図 2.1 米代川流域と地形図